

加古川河川敷でのドライブインシアターなどを提案した学生＝神戸市東灘区岡本8

河川敷での映画上映／子育て支援など

加古川市内の観光振興や新型コロナウイルス収束後の地域課題について、甲南大（神戸市東灘区）の学生が考える「加古川『知』を結ぶプロジェクト」の成果報告会が6日、同大と加古川市役所をオンラインで結んで開かれた。4チーム約40人の学生が、同市の岡田康裕市長らと意見を交わした。

（千葉翔大）

学生が描く地域の未来

加古川市に甲南大生提案

同大と同市、神戸新聞社が2016年度から取り組む事業。学生は約2カ月間、アンケートや同市内での実地調査に取り組んできた。今回は新型コロナウイルス感染防止のため、オンライン形式での報告となった。

マネジメント創造学部の2、3年生でつくるチームは、コロナ禍による外出自粛で「精神的な疲労を訴える人が増えた」とし、リフレッシュのため、加古川河川敷で車に乗ったまま映画を鑑賞できる「ドライブインシアター」の実施を提案した。このほか、加古川の水資源を生かした子育て支援や、ボランティア体験を通じ、子どもたちにも市民としての意識を高めてもらう教育などの提案もあった。

「知」を結ぶプロジェクト

